

(議長)

休憩を閉じて、再開いたします。

次に横山議員の発言を許可いたします。

「横山議員」

「横山議員」

はい、では質問いたします。

1 番、観光振興における基本的取り組み方についてという質問事項を掲げました。趣旨は今新幹線延伸これはもう目の前に迫っております。それに対して具体的振興策を打ち出すべきではないかというような趣旨でございます。そういう意味でもう時間もないという中で、今年辺りに大変なエネルギーを集中して行かなければならないと思いますが、聞く所によりますと具体的な箱物による事業展開は考えていないというつまりソフト事業だけで効果的策を生み出せるのかということについてであります。他町を見ますと色々な策を打ち出してきております。その中には箱物に対しての事もあります。具体的に言えば厚沢部町では道の駅を改修するというような事もあります。あるいは乙部町辺りだと宿泊設備を改修するというか、そういう事業なども考えております。まあそういう中で江差町は財政の問題もありますから今色々と考えてらっしゃるのだと思いますが、新幹線延伸はこれはあの大変な江差町においてもチャンスであります。あのそれに対して効果的な策を打ち出すべきと考えますがもう時間もない中においてそこはどのように進んでいるかということをもまず1問目で聞きたいと思います。

(議長)

「町 長」

「町 長」

北海道新幹線の開業を3年後に控え、交流人口の拡大による地域経済の活性化とその開業効果をしっかりと地域で享受するための施策を推進することは、将来における本町の観光や産業の振興などにとって大変重要なことと考えております。まあ横山議員のおっしゃる箱物とは何を指しているのかはわかりませんが、ソフト事業だけで効果的策を生み出せるのかというようなことでありますけれども、町ではこの間当面の新幹線対策として3つの重点分野に応じたソフト事業を展開しているところでございます。

1つは町のホームページのリニューアルを通じて地域の情報を積極的に発信すること。

2つ目は観光 PR 戦略として、各種の観光情報誌への記事の掲載や、東北や北関東周辺エリアへの観光プロモーションへの参加。また文化庁の助成を得ながら、文化庁の助成決定をさせて頂きました。450万円決定をさせて頂きまして改めて民間団体による観光 PR 映像の制作等を行う予定であります。

3つ目は機運の醸成や、普及啓発を目的として地域住民を巻き込んだ江差来てネットの運営、江差周遊無料シャトルバスの運行、観光 PR モニュメントの制作等街中に少しずつではありますが新幹線開業に関する様々な動きが芽吹いているところでもあります。今後も地域資源の発掘や、磨き上げ更には新たな観光方針の開発等地域や関係団体等と連携を図り、現存する海の家開陽丸や、追分会館等多くの観光施設を有効に活用した対応が必要であると考えていることからこれらを踏まえ、しっかりと新幹線開業に対する準備を行って参りたいと考えているところでございます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

町長のご答弁頂きまして、まあ色々施策も打っているということは聞きました。ただ、江差の今までの状況で考えますと江差の観光シーズンっていうのはこの大きい山が4月それから5月の連休、それからまあ7月8月江差のお祭りにピークにしましてもう1つの大きな山があります。そういう中はそれはあくまでもやっぱり道内客、あるいは函館までも考えた近隣との、からのお客様を考えての展開になりますのでまあその辺はあれなのですが。例えば私今年の春にも、東京の方に旅行会社のエージェントを訪ねまして色々話しもしてきましたが、江差ってものは我々が江差には観光資源が沢山ある、こういうものが追分もある何もあると色々ありますが、中々それが向こうの人には上手く伝わっていないというのが現実のように思います。それをいかにやっていくかっていうのが先程の色々なプロジェクトを PR 戦略などのプロジェクトで展開していくということなのですが、まあそれだけでは中々今まで通りの展開、今でも皆さん関係者一生懸命続けて来られていますが、それは大きくあの伸びることはないのではないかと特にこの新幹線っていうどっかに東京というか北関東東北からのお客様をターゲットにして考えた場合それへの対策などをもっと積極的なあの効果的な対策を打ち出されるべきだと思います。そして箱物についてのことを考えますと具体的には色々箱物と言いましても考えられますが、江差に何があるのというのを聞かれるわけですね。私らは江差追分があるじゃないですかとか、言うのですが何かそれさえも上手く浸透していない。旅行会社のエ

ージェントの担当者に、企画担当に対してもそれが上手く浸透してないという
か伝わっていないのが現実でございます。ですからもっと大きな江差来てネッ
トですか、とか色々ホームページ改良するとか色々な手を考えてらっしゃると
思いますが、まあそれらはもうもっとあの本当にあの効果を外からみた目で評
価して、そして対策を打っていくというそういう外からの目をもっと大きく入
れるということの対策が必要じゃないかとおもいますが、ちょっと具体的にそ
の辺はどういう対策を今練っているのか考えているのかお聞かせ願いたいと思
います。

(議長)

はい、「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

はい、2問目の質問頂きました。江差町は今例に取られた通り近隣町と比べ
ますと多少条件が違うのかという風に私は考えております。例えば道の駅1つ
取りましても江差町は昨年海の駅ということで、売店を含めた整備もしながら
開陽丸のリニューアルということを実施しております。また平成22年度には
追分会館と併設しまして山車会館の整備もして来ている、そういう意味で言う
と箱物を全く手をつけて来ていないというわけではないのです。ちょっと前に
手をつけて来ているということなのです。それでそういうような施設等含めて
整備されて来っていますが、江差町の場合は他町と比べるとその他にもかなり沢
山の観光施設がございます。ここを目指してお客さんが現実入って来ていると
いう状況があるのかという風に思っております。単なる通過点ってということじ
ゃなくここを目指してお客さんが来ているという状況があると、そういうお客
さんにいかに満足して頂いていかにここでお金を落として頂けるのかというこ
とを考えます、やはりこれは民間の役割っていうものも大切になってくるのか
なという風に思っております。特に今新たに出来ました海の駅などでは民間と
しっかり手を結んで一元的にここでもお土産を買って頂いて江差にお金を落と
して頂く努力も必要ですし、また弱い部分でいくとお土産品だとか食の部分と
いう部分が江差は弱い部分がまだあるのかなという風に思っておりますが、こ
れらにつきましても近年あの取り組みをしておりまして徐々にお土産品等も増
えてきているような状況もございます。また食の方も徐々に進んで来ているの
かなという風には感じております。ただまだまだこれで満足できる状況ではない
ので何とかここに力を入れて支援、指導をしながらもっともお客さんに満
足できるような体制を作っていく、その為にはまあ現状ではソフト事業が有効
な手なのかという風な認識で思っておりますので新幹線開業に向けてはしっか

りと取り組みをしていきたいなという風に思っております。

(議長)

今の質問の中に答えが足りないのは、その事をどのように全国に売り出すのか、どういう施策を持っているのかということまで聞いている。その辺を。

「追分商工観光課長」

先程1問目の町長の答弁にもございましたけれども、いかにこの情報発信していくのかという問題だという風に認識しております。特に何ていうのですか今まで認識されてないまあ江差町全国的にはまだまだ2%程度の方しか認識していない、でその方達が江差は聞いたことあるけれど北海道にあること、また北海道のどこにある事さえもよくわからないというような現状があるのかなという風には思っております。ただこれは特効策があって、どんどん有名になるという話しではなくて地道にやっぱり売り込みをしていく、江差のリピーターを増やしていくということの中で積み上げがなされていくのかなと風に思っています。まあそのような観点から考えると先程言いました通りホームページのリニューアルも1つの大きな手だろうと、それから観光PRということで関東や東北への観光プロモーションの実施という事もしていきたいと。それから最も近くで新幹線がいつから来るのかどんな雰囲気で行っているのかという事さえもまだわからない住民の方々もいらっしゃるそういう部分に対して機運高めも含めてですね、来てネットだとかまた江差町役場の1階のロビーにも設置した通りあの情報発信する為のしげっちのモニュメント置いたり、また駅にもそういうようなものを置いたりというような個別な足元からの部分も含めて実施をしていきたいなという風に思っております、以上です。

(議長)

はい、いいですか。

「横山議員」

「横山議員」

はい、まあ今の答えでまあ大方集約されているのだと思いますが、まあ私も2問目でも聞きましたようにこれはこちら江差サイドから江差の町の方から見て、江差町がどうかなっているかという事で中々一所懸命皆さんやってらっしゃることだと思います。ただしさっきも話しましたが外から見てどういう風になって、江差というものはどこにそれこそどこにあるのか何があるのですか、江差を何があるのですか、春には松前の桜のちょうど1時間地点ですから休憩

地点、中継点。夏になると奥尻の行く時のそれも中継点、というような捉え方で設定されている旅行、企画が多いのです。それをいかに打ち破っていくかということはやっぱりあのもっと外からの目を取り入れる。確か前には色んなモニター制度だとかやってらっしゃるのだと思いますが、それが効果的になっているのかどうかそこをもっと進めるべきかと考えますがどのように考えますか。

(議長)

「追分商工観光課長」

「追分商工観光課長」

まあ先程と少し似た部分が出てくるのかと思いますが、モニタリングについて今現在考えているかということ現在の所は考えておりません。ただ検討の余地があるかどうかについては内部でまた改めて検討させて頂きたいと思いますが、あくまでも先程言いました通り行政だけが何かを作って発信していけば江差町が売れていくとかそういう訳ではないと思いますので、地元の民間の方としっかり手を結びながらいかに発信していくのかということが大切なところかという風に考えております。例えば現在あのボランティアガイドのような方々も町内で活動しておりますが、この方達がいかに活動しやすくするのも含めてこの事業の中にも取り込んでいきたいなという風に思っておりますので新たな発信をしていきたいという風に思っております。ご理解ください。

(議長)

はい、次２番目の質問。

「横山議員」

「横山議員」

２番目、質問事項としては国による地方公務員給与削減要請についてということであります。国によって地方公務員の給与削減要請があります。それに対して江差町はどのように対応するのかまあ新聞には新聞では出ていますが、改めて聞きたいと思います。そこには例えば今回今日の新聞などでも道の職員のあれも決まったようでございますから、そういう事も加味してどのようにするのか。そしてそれはラスパイレス指数超過に対して国による交付税削減っていうものが見込まれるわけです。つまり国のあれを１００とすると江差町はいくらぐらいになるからどうだというようなことで、いくら金額的には削減になるのか。まずそこを教えてくださいと思います。

(議長)

「町 長」

「町 長」

国は地方公務員の給与を国家公務員に準じて7.8%の削減を要請しているところであります。この背景は地方公務員の給与が国家公務員より高いと見られた結果からであります。ご案内の通り当町は平成15年度から独自削減を継続しておりこの11年間の平均削減率は7.1%となっているところであります。江差町においては国家公務員の給与平均給与を100とした給与水準、いわゆるラスパイレス指数が100.2であり、0.2上回るものの国家公務員並みの給与水準であると理解しております。これは前述した通り独自の給与削減を実施してきたことが、要因でございます。従いまして今回の給与削減の実施については見送ることとした所でございますのでご理解を頂きたいと思ひます。

一方給与削減に伴う交付税への影響でございますが、国は7.8%の給与削減に見合う分の交付税を全ての団体に対し一律削減することとしており、江差町への影響額は最大で我々の手元で計算した内容ですがおおよそ4,000万円程度という減額になってくるだろうとこのようにあの試算したところであります。ただし、国は各自治体がこれまで取り組んできた人件費削減や職員数の削減実績を重視し、いわゆる行財政改革の努力を客観的に評価する指標を設けて交付税の加算措置としての反映させることと考へているようであります。先般も大石参事官と協議をさせて貰ってきました。江差町の場合基準年前5年間の平均ラスパイレスは92.0であり、更に直近5年間の職員削減数は13人となっております。これらの数値を換算しあくまでも独自の試算がなされるものと推計独自の試算でありますけれども、おおよそ3,000万円程度の加算措置があるのではないかと推測している所であります。国の交付税削減は待ったなしの情勢であります。これによって住民サービスの低下などないようにしっかりと町政運営に努めて参りたいと思ひますのでご理解を頂きたいと思ひます。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

はい。削減金額でいいですと後で加算が見込まれるという話しはありましたが、だろうという見込まれるという事はそういうことですね。ただしそれは1

00.2%でした。それで今度はあのそれはあの昨年24年の4月時点においてそうでした。それ以前はあの勿論江差はもっと下がっていたわけですが、それは長年努力されています。しかし今度また今度は新しく今度7.8%という基準に出されているわけですね。それがなった場合においてそれが4,000万なのか、それともその7.8%が新しく7月からですか。7月からですから、なった場合はその金額がもっと膨らむのかどうか。そこをもう1度確認したいと思います。そこが大事な点ですね、まあ江差町はまずは100.2%これがなされているからいいだろうという見込みでやられているわけですが、まあ果たしてそれが町民に受け入れられるものなのかどうか、この辺は大きな問題になるかと思いますのでもう1度確認の為まずそこを1つ確認したいと思います。

(議長)

「(総務) 財政課長」

「総務財政課長」

はい、私の方からそれじゃご答弁申し上げます。あの7.8%の要請という国からの要請というのはですね、あくまでも先程の町長からの答弁もありましたけれども一律全自治体、全国の自治体に7.8%を要請すると。それでこの意味はこの分の見合う交付税を要するに一律削減いたしますよということになるわけでございます。従ってこの先程のそれからもう1つですね、確認したいこと確認しておきたいことは100.2というラスパイレスはあくまでも24年度。これは今あの新聞なんかで出ていますラスパイレスは全てそうなのです。24年度のラスパイレス指数でございまして、従って25年度はまだ出ていませんので7月以降に出るかなという風には思っていますけれども、そういうあの7.8%の一律交付税を削減しますという意味でまず確認させて頂きたいという風に思ってます。

(議長)

はい、「横山議員」

「横山議員」

どうも余り説明でないように思うけれど、まあそれはそれで進みましょう。交付税が削減されます、それはあの国のこれが色々後で加算の評価がされるかもしれませんがそれを期待したいところですが。交付税との7.8%をあれに全国平均でやっているものですが、それに対しての乖離している離れている部分をオーバーしているならばその分を交付税という形で削減、交付税の中から

削減ということでございます。で、まあそれがつまり交付税というものはこれ町に返ってくる江差町に入ってくるお金です。それが削減される、つまりこれは江差町の予算に関係する、つまり江差町の町民全体に影響することです。これが、江差町全体に関係してその分だけ減額になるというか減らされてくるといことは、これは職員は国のレベルに合っているということでこれはまあ良いとしても、その言わば影響を町民全体で被ることになるのではないかという風に考えます。これはむしろ大変大きな問題になるかと思います。まあ江差町中々全体経済状態大変な中にあります。例えば函館市辺り他町のことも他の公共団体の事も持ち出して恐縮ですが、恐縮というか一応参考の為にはですねこの独自地域のですね江差町内地域の収入といいますか、給与水準といいますか、給与貰っている人で言えば給与水準。あるいは年金などで貰っている人は年金などの収入を当てにしている人はその収入の水準を考えますと、まあ大変厳しいものがあります。事業所なども大変厳しい状態でやっております。そういう中において職員は国レベルのあれでなっているから近いからいいのだという発想でいいのかどうか。もっと地域の状況、所得あるいは給与水準など含めてあの経済状況を考えて江差町も職員の給与水準の削減などで協力を求めても良いのではないか、そのようにも考えますが、町長はどのように考えますか。

(議長)

「町 長」

「町 長」

あの最初に答弁した通り江差町職員の給与の削減はいたしません。この状況についてはですね議員ご案内だと思いますが、民主党政権下においてこれ民主と自民があので取り決めた背景があるわけでありまして。それをまああのこういう形の中で今2年間だけ、7.8%削減とということですからあがってくる収入がそれ以上の膨らみがないから、言ってみると7.8%これを削減するということになっている訳であります。基本は地方自治体の職員の給料は地方自治体で決めるべき。国に左右されるべき問題ではないと私はこう思っています。しかし、その背景の中で地方交付税という形の中で国からの交付税によって縛られる傾向があるこういう反面からすれば、致し方ないと、全道各地の自治体の首長のお話を聞いても致し方ないという背景もある事も間違いのないわけです。しかし自治体の中ではそうは言っても私達は私達の職員で職員給料は私達が決めるべき問題だから、何も国に左右されるべき問題ではないという事での職員給与を削減しない、自治体も多いわけでありまして。それは原則論だと思っている訳であります。まあ何回も言いますがこれまで議会もそうですが、

町民も含めて職員も含めて、これまで11年間職員給料を私が首長になって以来削減した給料、減額の額いくらだと思いますか横山議員。江差町職員に理解を求めて対応してきた額が6億9,200万になっている訳ですよ。議会も20人居た議員さん達を12人まで減らし、そのような財政の困窮下を乗り切ってきたと。こういう実績下の中では、私はこれまでの11年間のこの実績を職員の協力を評価したいと思っておりますから、0.2%0.1%がいくらになるかとおおよそ300円弱ですよ。その額をそうこうして下げなきゃならないか、これまでの11年間の実績を私は評価したいと思っています。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

3回目はした、だけれど返答がない。町の一般の町民の給与、あるいは所得などと比べてそれをどう考えるかってことに対する返答がない。

(議長)

「町 長」

「町 長」

町民に理解を得るものと、これまでの取り組みも含めて評価できるものだという風に思っております。

(議長)

はい、いいですか。

(議長)

横山議員の一般質問を終わります。

休憩に入りたいのですけれども、休憩は1時ということになっておりますけれども休憩中にそれぞれ常任委員会、それから議運並びに広報等々の議員の配置がございます。よって1時を回るか回らないかわかりません、よってお知らせは、事務局の方から5分前に皆さんにお知らせしますのでご理解を頂き休憩に入りたいという風に思っております。

休憩いたします。

(休 憩)